

国立特殊教育総合研究所研究紀要 目次

第19巻（平成4年2月）

（原 著）

- ・盲聾であることと探索活動－不確定域における一人の盲聾児の行動調整の現われ－ 土谷良巳 1－9
- ・自閉症児の数量の学習における動機づけの機能 寺山千代子 11－19
- ・子どものことばの広がりを支えるもの 肥後功・松村勘由 21－29
- ・他者との身体接触によりもたらされるからだの再認知－教師を対象とした実習での体験と肢体不自由の指導－ 徳永豊 31－38
- ・思春期を迎えた発達障害児の処遇－施設の利用をめぐる教育相談事例の体験と考察－ 大柴文枝 39－46
- ・乳幼児のコミュニケーション行動の成立機序とその変容－乳児院における乳幼児と保育士との保育的関係の検討－ 後上鉄夫 47－54
- ・日本手話の造語法に関する研究 小田侯朗 55－64
- ・自閉症児の記憶・思考に関する生理心理学的研究（3）－Calendar Calculating の検討－ 東條吉邦・水谷徹 65－72
- ・病弱教育における生活科の教科構成に関する研究 近藤久史 73－80
- ・精神遅滞児の読字学習における2次元ディスプレイ上のシミュレーション利用の有効性－音節分解抽出技能の形成プログラムを利用して－ 棟方哲弥 81－89
- ・聴覚障害児の音楽・リズム活動について 須藤正彦 91－98
- ・弱視児の学習効率性に関する研究（IV）－小学校弱視学級における通級指導の現状と課題－ 千田耕基・中野泰志 99－108
- ・重度精神遅滞幼児の社会的相互交渉に関する研究 若松昭彦 109－116
- ・児童と教師の行動変容過程の分析（2）－教師の非音声行動のわかりやすさと児童の行動－ 緒方登士雄 117－127